

農 林 水 産 物 の 生 産 等 概 況

〔令和3年7月2日〕
農業経営発展課

I 気象概況

1 気温

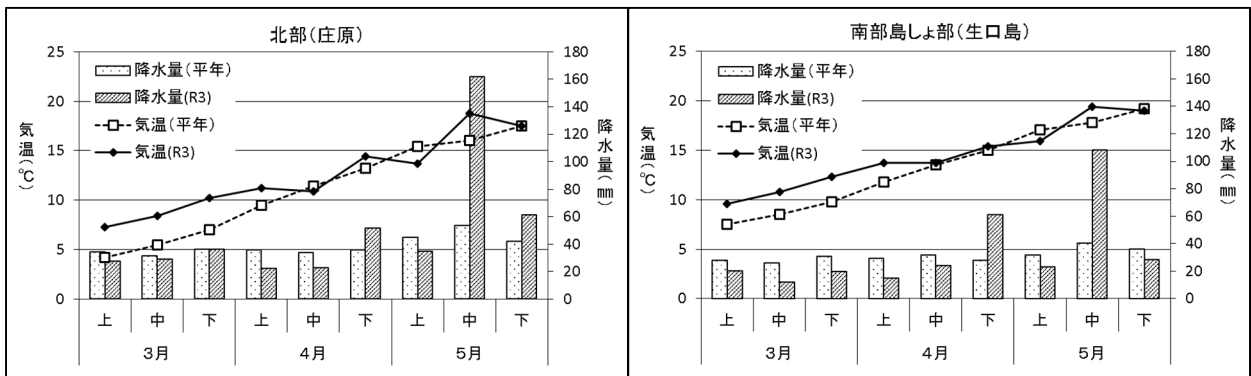
中北部では、3月に平年より3℃ほど高く、4月上旬も平年よりも2℃程度高く推移したため、落葉果樹等の開花が1週間程度早まる一方、4月中旬には最低気温が氷点下まで下がる日があり、なし、りんご、もも等が遅霜・凍結による被害を受けた。

南部は、3月から4月上旬にかけて平年より2℃前後高く、その後は概ね平年並みに推移した。

2 降水量

3月から4月は平年より降水量が少なかったが、5月15日頃に梅雨入りし、5月中旬は平年より降水量が多くなった。(5月15日頃の梅雨入りは平年より22日早い。)

5月中旬には南部・北部ともに、平年のこの時期の約2.5倍の降水があり、16日には県内の一部に大雨警報が発令される強い雨となった。



3月から5月の気温及び降水量の推移

II 農産物

1 普通作物の生産状況

(1) 水稲

5月末現在の主食用水稲の作付面積は21,750haと、昨年より約250ha減少(対前年比▲1.1%)するものと見込んでいる。

一方、コロナ禍の影響により需要が減少している酒米からの転換もあり、非主食用米の作付面積は1,450haと、前年から約50haの増加を見込んでいる。

現在、田植えは概ね終了し、生育は概ね順調である。

(2) 大豆

県内の大豆作付面積は、三次市や世羅町を中心に400haと、昨年より約30ha減少するものと見込んでいる。

現在、播種作業が行われているところであり、7月下旬に終了する予定である。

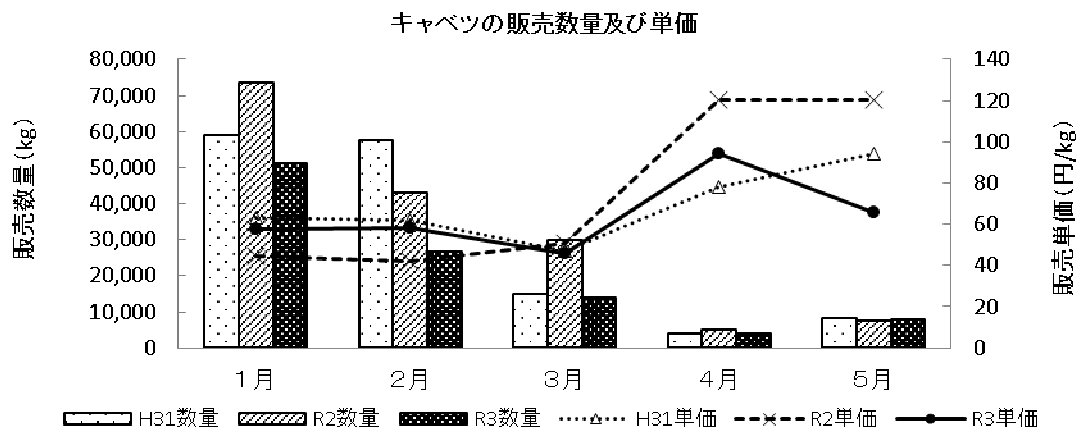
2 野菜の生産状況

(1) キャベツ

県内の作付面積は418haで、1～3月は尾道市、呉市等を中心とした県南部の産地の出荷が多い。

今年は、年明けの寒波の影響で1～3月は前年より少なく、高値傾向となったが、3月以降の好天で温暖な日が続き、順調に生育したため、4月以降は概ね前年並みの出荷となった。

単価は、前々年と同様の水準となった。前年の4～5月は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令を契機とした買いだめが起きたため高値となったが、今年は一昨年に近い価格となっている。

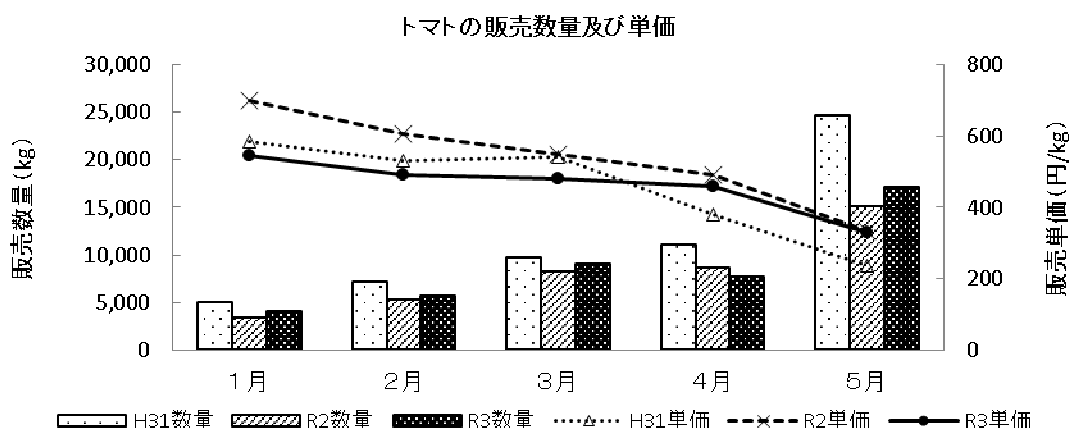


(2) トマト

県内の作付面積は185ha(通年)。冬春トマトは呉市や尾道市など県南部を中心に生産され、7月の初め頃まで出荷が予定されている。生育は順調で、前年をやや上回る販売数量である。

販売単価は平年並みで、過去2年に比べて安定している。

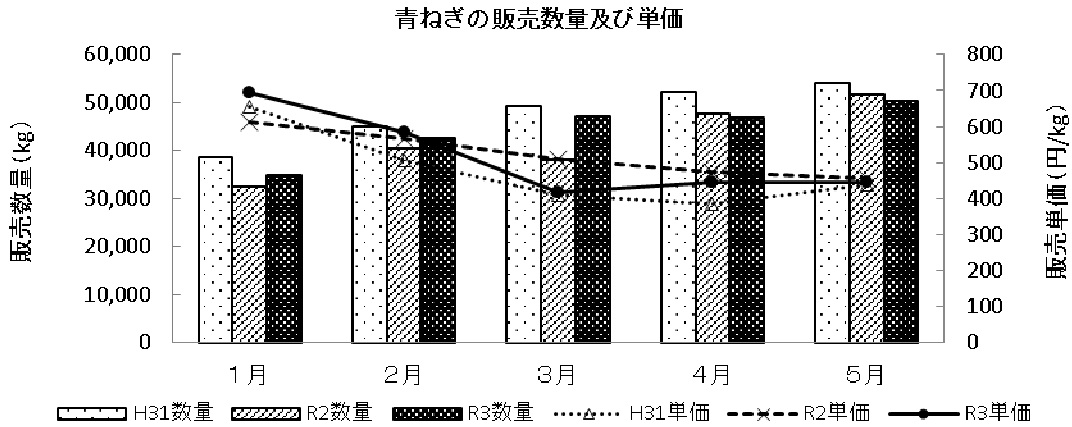
夏秋トマトは神石高原町や庄原市など県北部を中心とした地域で生産され、6月上旬頃から出荷が開始されている。



(3) 青ねぎ

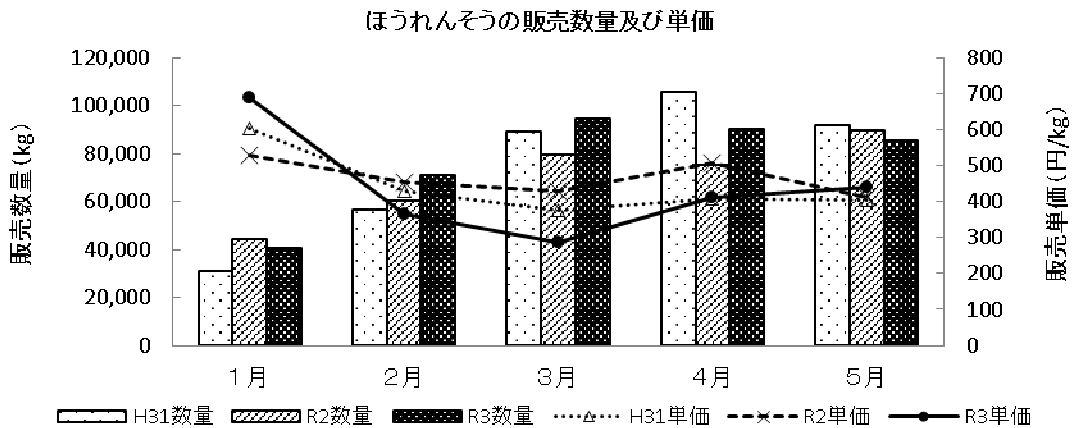
安芸高田市を中心に生産が行われ、周年出荷されている。3月から5月の販売数量及び単価は概ね前年並みで推移している。

ハウスでの養液栽培の割合が他の野菜より高く、契約栽培比率も高いことから、出荷数量・販売単価の年次変動が比較的少ない品目である。



(4) ほうれんそう

広島市や福山市、庄原市を中心に 389ha で生産されている。今年1月は、寒波の影響で高値となったが、その後は温暖な天候により出荷が前進し、2月から4月には販売数量が前年より多くなったことから単価安となった。5月は出荷前進の反動で、販売数量が若干減少した。

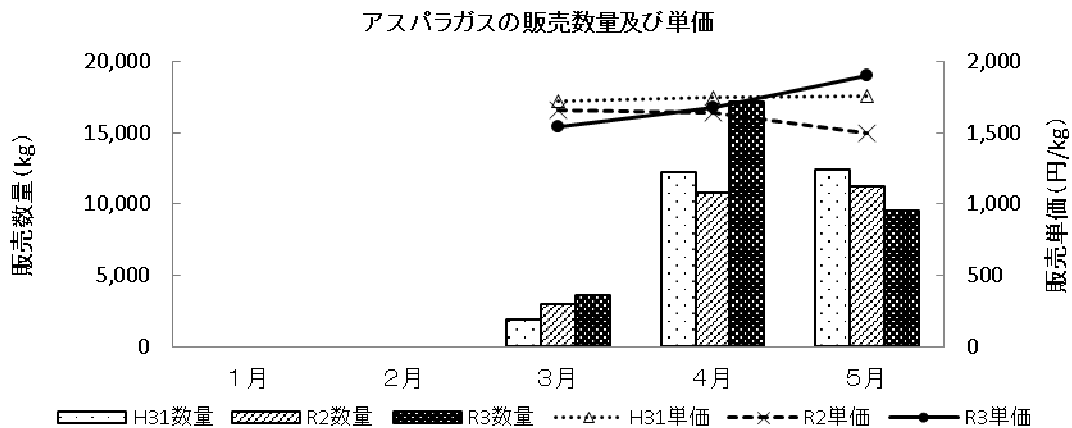


(5) アスパラガス

三次市や世羅町を中心に 113ha で生産が行われ、3月から出荷が開始されている。

今年は春の高温傾向により出荷時期が前進し、4月の販売数量が前年より大きく伸びたが、販売単価の低下は起こっていない。

生育の前進化により、立茎時期が例年よりも早まり、5月は出荷数量が大きく落ち込んでいる。そのため、5月の単価は直近3年間では最も高くなっている。



3 果樹の生産状況

(1) うんしゅうみかん

結果樹面積は昨年より 110ha 減少し、1,720ha で生産が行われている。

本年の予想生産量は 24,506 t, 前年比 106%の見込みで、同じ表年である一昨年と比較し 79%を見込んでいる。

生育は、平年より 9 日程度早く進んでいる。

(参考) 本県産うんしゅうみかんの予想生産量 (5月20日時点)

区 分		生産量			対比	
		令和3年産 予想(t)	令和2年産 実績(t)	令和元年産 実績(t)	R3/R2 (%)	R3/R1 (%)
う ん し ゅう み か ん	極早生	3,341	3,810	4,870	88	69
	早 生	9,258	8,378	11,018	111	84
	普 通	9,449	8,700	12,100	109	78
	合 計	24,506	20,888	27,988	106	79

※令和元年・令和2年産実績は農林水産省統計による。

令和3年産予想は農業経営発展課調べ(令和元年産実績に令和3年産の結果樹面積の増減率を乗じて算出)

(2) レモン

近年、植栽面積は毎年 10ha 程度増加しており、今年中に 300ha 程度になると見込まれる。

令和3年1月の寒波の影響により、令和2年度産の生産量は 4800t 程度と見込まれる。

令和3年度産は寒波被害からの回復が見込まれるため、生産量は 5,570 t, 前年比 116%, 寒波被害前の一昨年と比較し 86%を見込んでいる。

(3) ぶどう

結果樹面積は現状維持の 279ha となっている。

生育は、春の高温傾向により、平年より 3~5 日前進したが、現在は平年並みに戻っている。

尾道市産のデラウェアは、平年並みの 5月24日から出荷が始まっている。

(4) なし・りんご

結果樹面積は、なしは現状維持の 138ha, りんごは微増の 86ha で栽培されている。

今年3~4月の高温傾向により、開花時期が、なしは平年より 10~15 日早く、りんごは 7 日程度早まった。4月中旬に中北部で起こった凍霜害で着果不良となり、出荷予測数量が、なしは平年比で 30~50%, りんごは平年比で 40~60%と、大幅な減少が見込まれる。

4 花き（きく）の生産状況

県北部では三次市や庄原市、南部では江田島市を中心に生産が行われている。

生育は北部において、一部、霜の影響による葉傷みがあったが、現在は回復し、概ね順調である。

花き全体では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の影響により、冠婚葬祭などで使用される花きの販売は、厳しい状況が続いている。

広島市中央卸売市場における花きの販売状況（5月）

品目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	千本	前年比 %	平年比 %	円/本	前年比 %	平年比 %	千本	前年比 %	平年比 %	円/本	前年比 %	平年比 %
大中輪ぎく	669	112	90	44	94	83	18	37	35	47	124	97
スプレーぎく	423	108	87	48	91	91	25	58	62	52	130	108
小ぎく	654	89	107	24	92	73	220	84	155	24	109	71

出展 広島市中央卸売市場「市場月報」より

Ⅲ 畜産物

1 子牛取引の状況

子牛取引頭数は、前月比及び前年同月比ともに減少している。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言など全国的な経済活動自粛の影響から、黒毛和種の子牛価格は前月比では低下しているが、前年同月比では著しく上昇している。

三次子牛市場における黒毛和種子牛取引頭数及び価格の状況（R3.5月）

頭	取引頭数		県外 購買率 %	千円/頭	平均価格		(参考) 全国平均 価格 千円/頭
	前月比 %	前年同月比 %			前月比 %	前年同月比 %	
282	93.4	97.2	39	752	96.9	126	754

2 生乳生産の状況

生乳生産量は、前月比及び前年同月比ともに増加している。

生乳生産の状況（R3.4月）

t	生産量	
	前月比 %	前年同月比 %
4,441	101	108

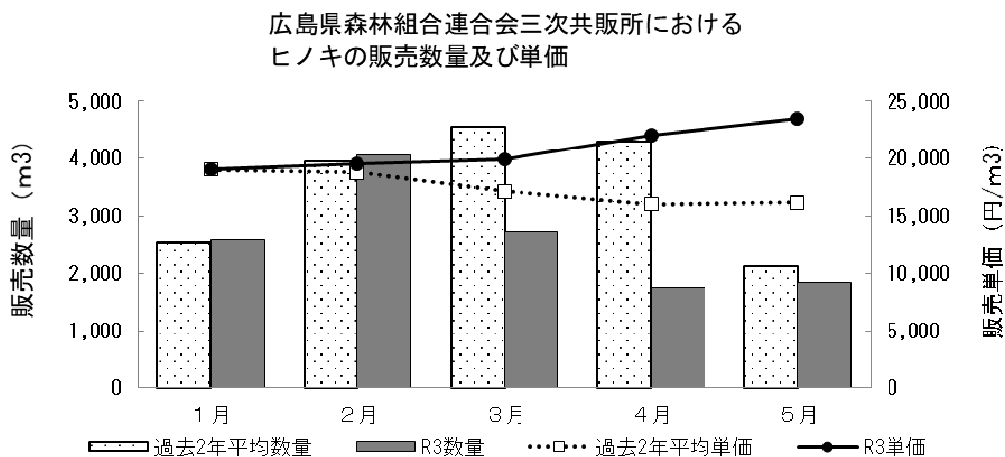
(注)「牛乳乳製品統計（農林水産省）」

IV 林産物

1 木材価格等の状況

ヒノキは、主に住宅の柱や土台に利用されており、販売単価は、昨年春先のコロナ禍における住宅着工の減少の影響を受け、大きく低下した。今年2月以降は輸入木材の価格高騰や品不足の影響により、輸入木材の代替えとして、引き合いが強くなったため、例年を上回る水準となっている。

販売数量は、積雪の影響による準備作業の遅れから、3月以降減少していたが、現在は例年並みとなっている。



V 水産物

1 水温

6月上旬の県内海域の水温は17.4～22.3℃で、平年差は+0.1～+2.6℃であった。

	広島湾	安芸灘	備後灘
6月上旬の海域の水温	20.7～22.3℃	17.4～18.5℃	18.8～22.3℃
平年差	+1.1～+2.6℃	+0.1～+0.7℃	+0.1～+1.9℃

2 漁獲状況

(1) 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物13品目の取扱数量は、サワラ、マダイ、スズキ、ヒラメ、カワハギの5品目で平年を上回っており、特に、サワラは313%、マダイは189%と大きく増加している。一方で、メバル、サヨリの2品目は平年比50%以下と大きく減少している。

(2) 取扱単価

県内産の取扱単価については、サヨリを除いて平年を下回っており、特に、サワラ、マダイ、スズキの3品目については、県内産のみならず市場全体の取扱量も多かったこともあり、平年比50%台の単価となっている。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和3年4月）

品目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
サワラ	33.8	174	196	766	97	55	12.1	134	313	673	99	51
マダイ	98.0	186	159	495	83	58	41.2	227	189	431	78	53
スズキ	21.1	199	114	367	83	57	9.3	136	118	338	91	57
ヒラメ	10.7	135	99	1,485	100	91	3.4	121	145	1,381	109	94
カワハギ	24.8	112	54	675	120	122	11.4	92	153	740	132	81
クロダイ	16.2	125	75	257	98	71	13.0	122	72	258	95	69
カサゴ	2.0	79	69	684	117	75	1.1	116	78	725	107	74
オコゼ	2.8	86	61	1,338	140	83	1.6	70	62	1,239	134	79
アナゴ	28.4	188	99	1,423	94	76	1.7	184	52	927	88	70
タコ	12.5	82	75	1,380	107	92	4.4	62	61	1,422	107	89
コウイカ	7.2	93	51	633	90	101	1.5	37	67	720	96	94
メバル	11.6	57	65	1,157	154	98	1.2	35	19	1,176	154	95
サヨリ	13.1	61	46	780	154	114	10.4	48	42	794	158	113

平年値は平成23年～令和2年の平均

3 かきの養殖状況

令和2年度漁期のかき養殖は、10月1日から出荷を開始し、一部の生産者は6月12日まで出荷したものの、概ね5月末までに終了している。平均むき身重量は15.5g/個（平年比101%）で、平年並みとなった。

令和3年度のかき採苗対策については、昨年と同様に、国、県、広島市などが連携して、かき幼生の分布等を調査し、調査結果を直ちに漁業者へ情報提供するとともに、6月中旬までに生産者が産卵用の母貝筏を広島湾北部海域へ移動するなど、種苗の安定確保に向けた取組を進める。